

税関のミライビト

Customs Future

自ら考えて主体的に働ける職場

私が所属する輸入事後調査部門では、外国貨物を輸入した会社を訪問して、貨物に関する契約書などの取引関係書類や会計帳簿書類を精査し、申告した関税等の税額が適正であるか税務調査を行っています。法律や貿易用語等の貿易に関することを理解していないと如何なる調査も出来ず、最初は帳簿や書類の見方にも苦労しましたが、新任者に向けた研修制度を積極的に利用して、実践に対応できる内容を学んでいます。

税関は多様な業務があ

るなか、輸入事後調査業務は、能動的な業務であると思います。自らが主体性を持って積極的に行動しなければ何も始まりません。自ら考えて主体的に働きたい方にとってピッタリの職場だと思います。



平成 31 年度採用一般職大卒（行政）
調査部 事後調査部門

間違いはない
だろうか・・・

～税関を志望した理由～

入関前、税関については不正薬物等を空港の水際で取締まるイメージが強かったのですが、就職活動期間に参加した官庁合同業務説明会を通して多種多様な税関業務を知りました。特に税関の使命の一つである「適正かつ公平な関税等の徴収」を担う通関や事後調査業務は、自身の税関のイメージとは大きく異なり興味を惹かれました。大学では理系学部で特定の専門分野しか学んで来なかった私にとって、多種多様な知識と経験を得られる税関業務は魅力的で、誰しも自分に合った活躍の場を見つけられるのではないかと思います。

Q、今の職場の雰囲気はどうですか？

A、先輩や上司が、自分の考えや意見を積極的に話すことができる環境を作ってくれていますので、方向を間違えないように自分の目標に向かって、余すことなく業務に注力することが出来ています。

Q、今後の目標は何ですか？

A、いざ輸入者への訪問・調査となると貿易形態は様々で、理解に悩むことも多々あります。しかし、調査経験を積み重ね、自分の考えを持って調査を行える職員になれるよう精進したいと思います。

◇ 職員の 1 日 ◇

- 8:30 実地調査に必要な資料等の準備
- 9:30 調査先へ出発
- 10:00 実地調査開始。輸入者の概況等を聴取
- 13:00 書類や帳簿の精査
- 17:00 事務所に戻り、入手資料等を整理して業務終了

